東京外国語大学オープンアカデミー

多言語・多文化社会 専門人材養成講座 2013

1

多文化社会 コーディネーターコース

2

コミュニティ 通訳コース

主催：国立大学法人 東京外国語大学社会連携事業室
企画・運営：多言語・多文化教育研究センター

多言語・多文化社会の課題解決に向けて

― 実践者のための専門人材養成講座 ―

多文化化による様々な問題の解決には、異なる言語や文化面の理解、共に生きるための施策や教育・こころの問題など幅広い知識と、多様な団体・専門家とのネットワーク構築や連携協働のスキルを有した「多文化社会コーディネーター」、また言語的マイノリティをホスト社会につなげていく橋渡し役としての「コミュニティ通訳」といった専門人材の養成が喫緊の課題となってきています。

本学では、こうした社会的要請に応えるため、2008年度に「多文化社会コーディネーター」養成講座を開設、2010年度からは、「コミュニティ通訳」コースを新設し2コース併設の「多言語・多文化社会専門人材養成講座」を開講しています。これまでに、「多文化共生」施策を担当されている自治体職員、国際交流協会職員、外国につながる子どもの教育に携わる教育委員会や学校の教員、地域日本語教育の担い手の方々、また外国人相談において相談員や通訳として活動されている方々など、多様な分野の実践者が、出会い、共に学び、それぞれの力量を高め合い、専門人材のネットワークを形成してきています。

今年度も、多文化化の問題に取り組む実践者のみなさまのご参加をお待ちしています。

修了生の声

※所属はコース修了時のもの

多文化社会コーディネーターコース（5期生）

廣田通規（ひろた みちのり）さん
財団法人自治体国際化協会（クレア）多文化共生課長
（埼玉県庁からの出向）

「外国語の大学で現場を踏まえた解決策が見つかるのだろうか」。自治体の国際化支援のための共同組織であるクレアが行うべき施策について悩んでいましたが、「実践と研究」が全体を貫く考えであることに惹かれ受講を決心しました。答えのヒントは机上ではなく、「実践」の中で関係機関等をつなぎ、それぞれの専門性を活かすことにありました。一貫性を持ってプログラムされた講座、経験ある講師陣にサポートされた振返り・プレゼンテーション・モニタリング・論文といった効果的な仕掛けにより、専門職としての「多文化社会コーディネーター」の社会的意義を深く自覚することができました。今後クレアがさらに自治体のために貢献できるよう、「実践者」として縦横無尽に連携・協働を生み出していきたいと思います。

薦田庸子（こもだ ようこ）さん
公益財団法人武蔵野市国際交流協会コーディネーター

日々の事業に追われる中での受講でしたが、私にとって非常に有意義な時間となりました。前半の講義は、日頃の実践の中での経験が体系的に裏付けられることも多い、興味深い内容でした。また、後半では、コーディネーターの役割と重要性を認識し、自らの実践を客観的に振り返ることができました。多文化社会コーディネーターの専門性に照らしての自分の強みや弱みを知った上で、今後専門性を磨き、コーディネーターの役割を果たしていくことが大切だと思っています。

和田利一（わだ としかず）さん
明徳義塾高等学校国際交流部長

学校現場で悶々と抱えていた問題を講座に持ち込み、解決の糸口を見いだすことができました。それは業種やフィールドは違っていても、“多文化共生”という同じテーマに取り組み、現場で奮闘している様々な人たちとの議論や共感を通して、新たな視点で課題を捉えることができたからです。この講座で築いたネットワークや、プログラムを通して学んだコーディネーターとしての素養を活かし、社会貢献できる人作りを目指していきたいと思います。

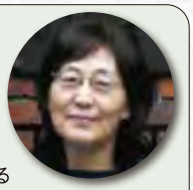
コミュニティ通訳コース（3期生）

森野カロリナ（もりの かろりな）さん
日本語を母語としない子どもと親のための
進路ガイダンス宮城実行委員会（スペイン語）

生まれたときから異文化の狭間に置かれた自分にとって、「通訳」は天職ではないだろうか、と思えるほど感動あふれる期間でした。南米と日本を架け渡す多文化環境の中では通訳活動は日常生活の一環でしたが、評価されにくい活動でもあり、時には周りの理解を得られず、孤独さえ感じることもあります。だからこそ、先生方からの専門的知識とスキル、仲間の受講生との交流を通して得られたものが今回私には大きな励みとなり、これからの活動の支えとなりました。このコースを機に今まで通ってきた様々な場面やそこで出遭った方たちを思い出し、その全てを新しい目で見ることができました。

後藤八重（ごとう やえ）さん
杉並区役所準職員(英語)

企業での経験を生かし、より多くの外国人の方々の支えになりたいとの思いで、一歩扉を押して本講座に参加しました。専門知識を解り易く説明する各講座内容、行政だけでなく多方面からの参加者の熱い意欲や活発な議論、見る・聞く・話すという基本作業への立ち返り、それらを昇華しながら自身のできることをもう一度見直すことになる貴重な機会となりました。この講座への参加やその後のネットワークが日々の現場での課題解決の一助となっています。



北岡幹子（きたおか みきこ）さん
中国帰国者定着促進センター（ロシア語）

ここ3年ほど関わっている分野をコミュニティ通訳という枠組みから整理してみたいと考え、このコースに参加しました。講座では、今後の活動の背景知識となるような幅広い講義が展開され、それは予想以上の充実度でした。また、通訳・翻訳の実習は、すぐにでも応用できる実践的なプログラムで進められました。日頃あまり意識することなく行っている活動を省察し記述するという貴重な振り返りもあり、この講座に参加した初期の目的は十分に果たされ、これからの道筋も少し見えてきた実感があります。

2つのコース・概要と流れ

①多文化社会コーディネーターコース(定員10名)

★多文化社会コーディネーターとは?

「あらゆる組織において、多様な人々との対話、共感、実践を引き出すため、「参加」→「協働」→「創造」のプロセスをデザインしながら、言語・文化の違いを超えてすべての人が共に生きることのできる社会の実現に向けてプログラムを構築・展開・推進する専門職」

②コミュニティ通訳コース(定員20名)

★コミュニティ通訳とは?

「言語的マイノリティーを通訳・翻訳面で支援することによって、ホスト社会につなげる橋渡し役」

※本コースは語学力を養成するものではありません。

共通必修科目

2つのコース合同で行われる集中講義(4日間)

2013年8月23日(金)～26日(月)9:00-17:30(初日のみ10:00-17:30)

9月　　レポート提出 (4,000字)

専門別科目

【秋期】9月21日(土)～23日(月・祝)
9:00～17:30　※初日のみ10:00～17:30

ワークショップ中心の集中講座(3日間)

【個別実践研究】10月～翌年1月

秋期専門別科目で検討した課題解決の方策を現場に持ち帰り、コーディネーターとしての実践を行います。

小論文提出 (10,000字程度)

【冬期】2014年2月22日(土)・23日(日)
9:00～17:30　※初日のみ10:00～17:30

プレゼンテーション中心の集中講座(2日間)

修了証の授与

修了後は…

- 全国フォーラムでの発表や、研究誌への投稿など、自らの実践を発信する機会を提供します。
- メーリングリスト等を通じて全国で活躍する修了生とのネットワークを築く機会を提供します。

専門別科目

9月27日(金)～29日(日)
9:00～17:30　※初日のみ10:00～17:30

集中講座(3日間)

到達度チェック (筆記)

修了証の授与

修了後は…

- 各種研修会等レベルアップを図る機会を提供します。
- 希望者を「コミュニティ通訳コース修了者」として登録し、弁護士会等から依頼のあった場合に紹介します。
(2013年2月現在　登録者 10言語 55名)

《活動実績》
2010年10月
～
2013年 2月

通 訳		翻 訳	
英語	22	英語	5
スペイン語	17	スペイン語	8
ポルトガル語	8	ポルトガル語	8
ロシア語	1	ロシア語	1
中国語	64	中国語	7
韓国・朝鮮語	7	韓国・朝鮮語	4
モンゴル語	5	モンゴル語	3
インドネシア語	3	インドネシア語	2
ベトナム語	5	ベトナム語	3
ベンガル語	9	ベンガル語	3
計　10言語	141人	計　10言語	44人

※多言語・多文化教育研究センターでは、2006年から多分野の専門家と現場の実践者が協働することにより、日本の多言語・多文化社会の課題解決を目指す「協働実践研究プログラム」を展開し、その成果を「シリーズ多言語・多文化協働実践研究」1～16にまとめ刊行しました。その一部が講座のテキストとして使用されます。(P.3参照)

※ご希望の方には無料配布しています(送料のみ自己負担)。多言語・多文化教育研究センターホームページを参照し、お取り寄せください。
※受講者は当日ご持参ください。

コースの内容　共通必修科目

期間：2013年8月23日（金）～ 26日（月）

場所：東京外国語大学 府中キャンパス

内容：2つのコースを合同で開講。多言語・多文化社会に関する知識理解および課題の把握を目的に、4つの分野から学びます

■言語と文化 1～4
世界の言語・地域研究を専門とする本学教員の講義により、多言語・多文化社会における言語と文化に関連する事項について学びます。

■多言語・多文化社会論 1～3
日本における多言語・多文化社会の諸課題を政策・医療・教育の分野から把握します。

■多言語・多文化社会実践論 1～3
現場での諸課題を解決するのに必要な知識・手法を学びます。

■ワークショップ 1～3
課題の共有や振り返りをワークショップ形式で行ないます。

多文化社会における宗教とは

国際理解教育と地域日本語教育

※時間・内容等変更する場合もあります。

時間割	9:00 ～ 10:40	11:00 ～ 12:40	13:40 ～ 15:20	15:40 ～ 17:30
1日目 8月23日（金）		10:00～ オリエンテーション・ 多言語・多文化社会における専門人材とは 杉澤 経子 （多言語・多文化教育研究センター プロジェクトコーディネーター）	言語と文化① 多文化社会における文化とは 栗田 博之 （本学総合情報コラボレーションセンター長／大学院総合国際学研究院 教授）	ワークショップ1 応募時の小論文をベースに自己紹介 振り返り 杉澤 経子
2日目 8月24日（土）	言語と文化② 多文化社会における言語とは 藤井 毅 （本学大学院総合国際学研究院 教授）	多言語・多文化社会論① 国・自治体における外国人住民との共生政策 山越 伸子 （総務省自治行政局国際室長）	多言語・多文化社会実践論① 在留資格制度とその実務 近江 愛子 （法務省入国管理局分析官）	ワークショップ2 実践を語り聴く 三輪 建二 （お茶の水女子大学大学院 教授）
3日目 8月25日（日）	言語と文化③ 多文化社会における宗教とは 青山 亨 （多言語・多文化教育研究センター長／本学大学院総合国際学研究院 教授）	多言語・多文化社会論② 異文化ストレスと日本の医療システム 村内 重夫 （逸見病院院長／日本貿易振興機構アジア経済研究所嘱託医）	多言語・多文化社会実践論② 福祉・ソーシャルワーク 妻鹿 ふみ子 （東海大学健康科学部 教授）	ワークショップ3 レポートの書き方 長谷部 美佳 （多言語・多文化教育研究センター 特任講師） 振り返り
4日目 8月26日（月）	言語と文化④ 日本語教育と年少者教育 小林 幸江 （本学留学生日本語教育センター 教授）	多言語・多文化社会論③ 国際理解教育と地域日本語教育 杉澤 経子	多言語・多文化社会実践論③ ボランティア・協働・ネットワーク 後藤 麻理子 （特活・日本ボランティアコーディネーター協会事務局長）	全体振り返りとまとめ 杉澤 経子

レポート提出（4,000字）：共通必修科目で得た知識を参考に、現場の課題を分析し実践の方向性をレポートにまとめます。

使用テキスト

① 多文化社会コーディネーターコース

■シリーズ多言語・多文化協働実践研究

●No.11　これがコーディネーターだ!
— 多文化社会におけるコーディネーターの専門性と形成の視点 —

●No.14 多文化社会コーディネーターの専門性をどう形成するか

●No.15 地域日本語教育をめぐる多文化社会コーディネーターの役割と専門性
— 多様な立場のコーディネーター実践から

●別冊1　多文化社会に求められる人材とは?
「多文化社会コーディネーター養成プログラム」～その専門性と力量形成の取り組み～

●別冊2　外国人相談事業
— 実践のノウハウとその担い手— ～連携・協働・ネットワークづくり～

●別冊3　多文化社会コーディネーター
専門性と社会的役割
—「多文化社会コーディネーター養成プログラム」の取り組みから —

② コミュニティ通訳コース

■ベルジュロ伊藤宏美　鶴田知佳子　内藤稔著『よくわかる逐次通訳』
東京外国語大学出版会 2,940円（＊実費負担となります）

■シリーズ多言語・多文化協働実践研究

●No.16　「相談通訳」におけるコミュニティ通訳の役割と専門性

●別冊2　外国人相談事業
— 実践のノウハウとその担い手 —　～連携・協働・ネットワークづくり～

＊参考資料として専門基礎用語集（英語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、モンゴル語、中国語、朝鮮語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ベンガル語の14言語のうちいずれか1冊）を配付します。

講義概要

言語と文化

1.多文化社会における文化とは
8月23日(金)13:00〜14:40　講師:栗田 博之

「文化とは何か」を巡って文化人類学者は長い間議論を続けて来た。「人間が学習によって後天的に獲得したもの」であり、「生活様式全般」が含まれるという点では、ほぼ意見の一致を見るが、文化の担い手である人間の集団が文化を「共有」し、後の世代に「伝達」するという場合に、どのように集団を定義するか、どの程度の継続性を前提とするか等の点で文化人類学者ごとに見解は大きく分かれる事になる。このように「文化」の概念は曖昧であるにも関わらず、その文化の固有性を最大限に評価する文化相対主義は文化人類学を支える基本原理の一つであり、反人種主義のイデオロギーとして重要な役割を果たして来た。以上の点を文化人類学の様々な学説との関連の中で説明して行きたい。

2.多文化社会における言語とは
8月24日(土)9:00〜10:40　講師:藤井 毅

今日、地球上に存在する国家のなかで、多言語状況を抱えていないところは、存在しないといっても過言ではない。しかし、多言語状況とは、決して自然現象として存在するのではなく、当該社会のみならず、その構成単位においても、言語の多様性が意識され、制度化されるか否かは、歴史環境のなかで決まると考えられる。私たちは、そうした経験と記憶を背負いつつ移動し、定着していく。このことを理解するために、インドをはじめとするアジアのいくつかの国を事例として取り上げて検討を加えてみたい。ある人の国籍とその使用言語を単純に結び付けて考えてはいけないことをきちんと理解することが、最初の第一歩となる。

3.多文化社会における宗教とは
8月25日(日)9:00〜10:40　講師:青山 亨

この講義では多文化社会における宗教実践の一例としてインドネシアを取り上げる。インドネシアはイスラーム教徒の数では世界最大の国だが、バリ島のヒンドゥー教のようにイスラーム以外の宗教も公認されており、アジアの典型的な多民族・多宗教社会の一つということができる。日本との関係も深く、最近では、研修生や看護師・介護福祉士候補として毎年多くのインドネシア人が日本に派遣されている。この講義では、日本人の信仰、とくに「神」概念を再検討してから、イスラームという日本社会からはもっとも遠くにあると思われがちな宗教をとりあげ、イスラームについての基本的概念の理解からはじめて、一つの社会の中に多様な宗教実践者が共存する社会とはどのようなものであるかを、インドネシア社会を通じて考えていきたい。

4. 日本語教育と年少者教育
8月26日(月)9:00〜10:40　講師:小林 幸江

今や、公立学校で学ぶ日本語を母語としない子供たちは身近な存在となってきている。子供たちは、様々な背景を持って日本の学校に入学してくる。そこで、日本語を習得し、日本語による学びを通して年齢相応の発達をしていくことが求められる。子供たちにとっては、日本語は生活・学びのための大切な言葉であり、第二の母語とも言える。本講義では、子供たちが第二の母語を学ぶということはどんなことなのか、どのような困難があるのかなどということを中心に、子供たちへの学習支援のあり方を、第二言語習得と母語の関係から探っていきたい。

多言語・多文化社会論

1. 国・自治体における外国人住民との共生政策
8月24日(土)11:00〜12:40　講師:山越 伸子

1990年の入管法改正以降、特に日系外国人住民が急増した地方自治体を中心に、日本語の学習支援等のコミュニケーション支援に加え、教育、労働環境、医療福祉など多岐にわたる分野での生活支援が行われている。また、日本人住民の意識啓発等の必要から、地方自治体においては庁内横断的な多文化共生推進体制の整備が必要となっている。国では、総務省において2006年に「多文化共生推進プラン」を策定されたほか、2010年度には「日系定住外国人施策に関する基本方針及び行動計画」が策定され、関係省庁において様々な施策が推進されているところ。講義では、多文化共生に関する国や地方自治体のこれまでの取り組みを紹介するとともに、災害時における対応を例としながら、地方自治体に求められることについて考察する。

2.異文化ストレスと日本の医療システム
8月25日(日)11:00〜12:40　講師:村内 重夫

外国人は多少の差はあれ異文化ストレスに曝される。生活様式や規範の相違、家族や友人からの離居、言葉の壁によるコミュニケーションの困難、社会的・経済的地位の低下、滞在国住民の非友好的態度など様々なストレスを誘因として不適応状態、病気の発症や再燃・再発などに至ることが少なくない。当該状況に至っても言葉の壁による相談や診療での支障、医療制度や保険制度の情報の不足などの壁がなお生じ、改善策を得ぬまま状況が遷延・増悪することもしばしばである。またこのジレンマはこれらの人々をサポートする側にとっても経験する課題である。演者は精神科医として南米での研修や精神保健プロジェクトでの自らの異文化ストレスの経験を背景に、在日ラテンアメリカ人の診療や発展途上国からの研究者の相談に従事しており、主として異文化ストレスと精神保健について考えてみたい。

3.国際理解教育と地域日本語教育
8月26日(月)11:00〜12:40　講師:杉澤 経子

1990年代を前後して、日本語がわからない外国人のために地域ではボランティアによる日本語教室が盛んに行われるようになった。また、学校では外国につながる子どもたちの増加によって様々な問題が顕在化してきている。こうした現象は、外国人側の問題として括られる場合が多いが問題は果たしてそれだけだろうか。「多文化共生」社会の実現という視点に立つならば、多文化化の問題をどう捉え解決していくべきなのか、国際理解教育の観点から、学校における国際理解の取り組みや、地域日本語教育の実践のあり方について考えてみたい。時間があれば、本センターの協働実践研究で開発した「居場所づくり尺度」についても触れる。

多言語・多文化社会実践論

1.在留資格制度とその実務
8月24日(土)13:40〜15:20　講師:近江 愛子

外国人が日本で安定的に在留するためには，入管法令やそれに基づく在留資格制度を理解し守っていただくことが重要であるため、外国人相談や支援に携わる方は、在留資格制度に関する知識及び実務について精通していることが必要である。また、昨年7月から、在留管理制度が実施され、法務大臣が在留管理に必要な情報を一元的かつ継続的に把握できるようになった。この制度において把握した情報を、外国人に適切な行政サービスを提供するといった観点から活用することになっているため、本制度について説明し、加えて、「多文化共生」施策として法務省が設置した「ワンストップセンター」についても言及する。

2.福祉・ソーシャルワーク
8月25日(日)13:40〜15:20　講師:妻鹿 ふみ子

福祉とは、「ふつうのくらしのしあわせ」の実現をめざすいとなみであり、ソーシャルワークはその福祉の実現のための援助の手法である。福祉を考えるときに重要なのは、制度や施策を組み合わせて福祉の実現をはかろうとすることだけでなく、支援が必要な人びとを排除せず、寄り添って必要なものを作り出すことである。専門職であるソーシャルワーカーが、市民を巻き込んでどのように福祉を実現させていくかが問われている。本講義では特に地域社会をフィールドに実践をするコミュニティソーシャルワーカーに焦点をあて、持続可能な福祉社会づくりの必要性とそのあり方を考えてみたい。

3.ボランティア・協働・ネットワーク
8月26日(月)13:40〜15:20　講師:後藤 麻理子

日本において「ボランティア」という言葉が初めて国語辞典に載ったのは、1969年のこと。当時は「奉仕活動」という言葉の方が一般的で、私心を抑えて他者のために尽くすといったイメージが強く、一部の限られた人々がするものと捉えられる傾向があった。しかし、阪神・淡路大震災をきっかけに多くの市民が自らのボランタリーな気持ちを行動に表し、95年はボランティア元年とも呼ばれている。その後の特定非営利活動促進法の成立により、ボランティア活動は個々の熱意を組織的・継続的な社会のしくみとしていく術を獲得し、NPOの結成も進んだ。ここでは、日本におけるボランティア活動の変遷とその特徴を〝つながり〟の視点から考える。

コミュニティ通訳コース　専門別科目
── 基礎知識①

多文化社会コーディネーターコース　専門別科目
── アクションプラン発表

❶ 多文化社会コーディネーターコース

秋　期

期間：2013年9月21日(土)～23日(月・祝)
場所：東京外国語大学 府中キャンパス
内容：自分の現場の実践の中で抱えている課題を再設定し、解決のための方策をコーディネーターの視点から実践的に学びます。

※時間・内容等変更する場合もあります。

時間割	9:00～		12:00		～17:30
1日目 9月21日(土)	10:00～ オリエンテーション	プレゼンテーション(レポート発表を中心に)		講　評	振り返り
2日目 9月22日(日)	コーディネーター論　基礎的実践・中核的実践		ワークショップ 協働の事業づくり～シミュレーション		振り返り
3日目 9月23日(月・祝)	アクションプランづくり	アクションプラン発表・個別実践研究に向けて		論文の書き方	全体振り返り

個別実践研究

期間：2013年10月～2014年1月
内容：秋期専門別科目で検討した課題解決の方策をコーディネーターとして実践し考察します。
運営メンバーが現地視察等を行い、モニタリング(※)やアドバイスを行います。

※ モニタリング…運営メンバーが、受講者の現場に出向き共同での「振り返り」を行うこと

モニタリングの様子

小論文の提出（10,000字）　現場の実践のプロセスを記述し、自らのコーディネーター論としてまとめます。

冬　期

期間：2014年2月22日(土)・23日(日)
場所：東京外国語大学 府中キャンパス
内容：10,000字の小論文の発表・議論を通してコーディネーター論をまとめます。

※時間・内容等変更する場合もあります。

時間割	9:00～		12:00		～17:30
1日目 2月22日(土)	10:00～ オリエンテーション	プレゼンテーション(小論文の発表を中心に)			振り返り
2日目 2月23日(日)	プレゼンテーション(小論文の発表を中心に)		講評	コーディネーター論 まとめ	振り返り 修了証授与

担当講師

全体進行・講義	**杉澤 経子**(すぎさわみちこ)　多言語・多文化教育研究センター　プロジェクトコーディネーター
講評	**青山　亨**(あおやまとおる)　多言語・多文化教育研究センター長／本学大学院総合国際学研究院　教授
論文の書き方・講評	**長谷部 美佳**(はせべみか)　多言語・多文化教育研究センター　特任講師

❷ コミュニティ通訳コース

秋　期

期間：2013年9月27日(金)～29日(日)
場所：東京外国語大学 府中キャンパス
内容：コミュニティ通訳に必要とされる、相談、司法、医療、行政、教育の5分野における基礎知識の理解を深めます。また通訳論、マナー、通訳技法の基礎については、遠隔通訳の形態を一部とり入れた演習で実践的に学びます。最終日には到達度チェック(筆記)を行い、知識理解がなされているかチェックします(語学力の試験ではありません)。

※時間・内容等変更する場合もあります。

時間割	9:00～10:30	10:50～12:20	13:10～14:40	15:00～16:30	～17:30
1日目 9月27日(金)	10:00～ オリエンテーション	通訳概論 鶴田 知佳子	課題・レポート講評 鶴田 知佳子 内藤 稔	コミュニティ通訳概論 内藤 稔	専門家相談 基礎知識 杉澤 経子
2日目 9月28日(日)	基礎知識① 行政・教育分野 山野上 麻衣	基礎知識② 司法分野 指宿 昭一	コミュニティ通訳活動の実際	コミュニティ翻訳、通訳のマナーと通訳技法の基礎 内藤 稔	
3日目 9月29日(日)	基礎知識③ 医療分野 押味 貴之	コミュニティ通訳演習 (ロールプレイング、ピアレビューなど) 内藤 稔		振り返り	到達度チェック・講評・まとめ 修了証授与

担当講師

全体進行・講義・演習	**内藤 稔**(ないとうみのる)　多言語・多文化教育研究センター　特任講師
通訳概論	**鶴田 知佳子**(つるたちかこ)　本学大学院総合国際学研究院　教授
専門家相談基礎知識	**杉澤 経子**(すぎさわみちこ)　多言語・多文化教育研究センター　プロジェクトコーディネーター
基礎知識①行政・教育分野	**山野上 麻衣**(やまのうえまい)　元カナリーニョ教室指導員、元浜松市国際課ポルトガル語通訳
基礎知識②司法分野	**指宿 昭一**(いぶすきしょういち)　弁護士・暁法律事務所
基礎知識③医療分野	**押味 貴之**(おしみたかゆき)　医師・日本大学医学部 助教

■ 受講者募集から開講までのスケジュール

6月30日(日)必着	受講者募集	※提出書類の詳細はP.7参照 （提出された書類は返却いたしません）
	書類選考	提出書類による書類選考
7月下旬	受講者決定／選考結果通知	選考の結果は郵送で通知 （受講決定者には受講の手続き、会場、参考資料等を記した「受講のしおり」を同封します）
8月上旬以降		（辞退者が出た場合は、補欠の方へ繰上通知をします）
受講者確定 受講料の納入期限 8月8日(木)		交通機関・宿泊先の手配（各自）
8月23日(金)	開　講	東京外国語大学　府中キャンパス

注意事項

受講者の決定
応募書類による選考の上、結果を郵送で通知します（選考にもれた方にも郵送で通知します）。

受講料納入
受講料は前納制です。受講決定者に対し本学より送付する受講決定通知書をご覧の上、指定口座に8月8日（木）までに受講料を納入してください。口座振込に係る手数料はご本人負担でお願いします。一度納入された受講料は払い戻しできませんので、ご了承ください。

受講料
① 多文化社会コーディネーターコース　35,000円
② コミュニティ通訳コース　25,000円

受講のキャンセルについて
受講決定後、やむを得ず受講を取り消される場合は、速やかに「専門人材養成講座」係まで電話またはメールでご連絡ください。補欠の方を繰り上げます。

宿泊について
受講が決定した方は各自でご手配ください。本学近郊の宿泊施設については本学より送付する「受講のしおり」をご覧ください。

講座の中止
申込者が一定数に満たない場合、講座を中止することがあります。中止の決定は7月下旬に行い、申込者全員に連絡します。

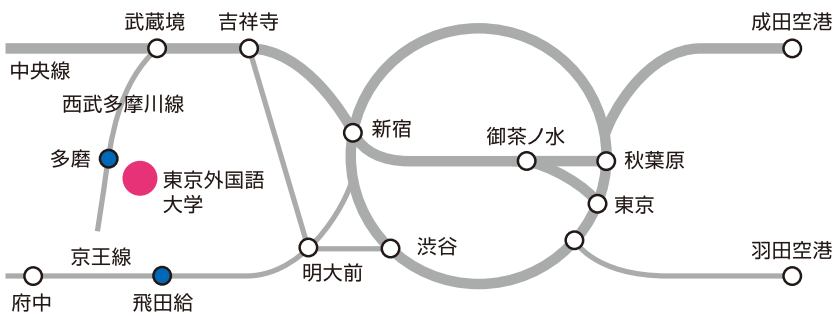
休講・補講
天候、交通機関などの事情により、やむを得ず休講となる場合は、原則として補講を行います。休講・補講の連絡先として、受講申込書には必ず日中に連絡が取れる連絡先をご記入ください。

録音・録画・写真撮影
原則として、講義中の録音、録画および教室内での写真撮影はお断りします。

受講資格の取り消し
次のような好ましくない行為があった場合は、教室からの退出、受講の停止、もしくは受講の取り消しをすることがあります。なお、受講料の返金はいたしません。
1.他の受講生の迷惑となる事や、授業の進行を妨げる様な行為を行った場合
2.受講の手続きや受講料の納付を完了していない場合
3.法令等や公序良俗に反する行為があった場合

その他
会場に駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

■ アクセス＆マップ　東京外国語大学 府中キャンパス



◆JR中央線「武蔵境」駅乗り換え 西武多摩川線『多磨駅』下車 徒歩5分（JR新宿駅から約40分）
◆京王線「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスで約10分『東京外国語大学前』下車

多言語・多文化社会専門人材養成講座

❶ 多文化社会コーディネーターコース

❷ コミュニティ通訳コース

多言語・多文化の現場で活動している皆様のご応募をお待ちしています

		❶ 多文化社会コーディネーターコース	❷ コミュニティ通訳コース
対象者		行政、国際交流協会、公益団体、企業、地域日本語教室等、多言語・多文化に関する業務や活動を行っている組織の中堅スタッフの方	外国語（下記応募方法欄参照）の語学力があり、自治体、学校、国際交流協会、NPOなどの外国語相談や通訳など、現場の実践経験（ボランティアも可）がある方
定員		10人　（最少催行人数　8人）	20人　（最少催行人数　15人）
受講料		35,000円	25,000円　※テキストの一部は実費（P.3参照）
開講時期	共通必修科目	2013年8月23日（金）～26日（月）／4日間	
	専門別科目	秋期　2013年9月21日（土）～23日（月・祝）／3日間 個別実践研究期間　2013年10月～2014年1月 冬期　2014年2月22日（土）・23日（日）／2日間	2013年9月27日（金）～29日（日）／3日間
会場		東京外国語大学　府中キャンパス	

※最少催行人数に達しない場合は開講されませんのでご了承ください。

応募方法

■以下の書類を期限までに郵送してください。

(1)申込書

●所定の用紙（A4/1枚）を本センターホームページ http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/よりダウンロードの上ご記入ください。

●①多文化社会コーディネーターコースの方は、個別実践研究期間に現場でのモニタリングを実施しますので、所属長の推薦（署名・押印）を得てご応募ください。

(2)職務経歴および活動経験

●所定の用紙（A4/1枚）を本センターホームページよりダウンロードの上、自由に記入してください。

●用紙の右上に氏名を必ず記入してください。

(3)小論文

①多文化社会コーディネーターコース

【テーマ】「多文化社会とコーディネーター」

●日本語（A4/1枚 1,000字以内）

※現場における問題意識をベースに、コーディネーターの必要性や役割について記述してください

②コミュニティ通訳コース

【テーマ】「コミュニティ通訳の必要性と役割」

●日本語（A4/1枚　800字以内）

●日本語の小論文を専門の外国語に翻訳したもの（必ず自分で訳したものをA4用紙に記入）

※小論文で語学力を評価するため、本学で対応できる以下の言語が対象となります。

英語・ドイツ語・ポーランド語・チェコ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語・ロシア語・モンゴル語・中国語・朝鮮語・インドネシア語・マレーシア語・フィリピン語・タイ語・ラオス語・ベトナム語・カンボジア語・ビルマ語・ウルドゥー語・ヒンディー語・ベンガル語・アラビア語・ペルシア語・トルコ語の26言語（それ以外の言語の方は事前にご相談ください）

※日本語小論文について（①②両コース共通）

●Wordで作成のこと。上下3cm、左右2cm余白を空ける。

●上部にテーマをゴシック体14ポイント、センタリングで記入し、その下に氏名・所属をセンタリングで記入。

●本文は40字×27行、明朝体11ポイント。

●である調で書くこと。

※応募書類は返却しません

●応募締切：2013年6月30日（日）必着

※応募書類は郵送してください

●結果：7月下旬に通知

■応募書類送付先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 研究講義棟319
東京外国語大学　多言語・多文化教育研究センター
「専門人材養成講座」係

■問い合わせ

多言語・多文化教育研究センター
E-mail : koza2013@tufs.ac.jp
TEL: 042-330-5455
URL: http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/

多言語・多文化教育　検索